

合併処理浄化槽設置工事施工管理確認書

補助金申請者	氏 名
合併処理浄化槽設置場所	前橋市

検査項目	チェックのポイント	確認欄	備考
浄化槽本体	申請どおりの型式、人槽の浄化槽であったか。		
工事開始の状況	工事開始に当たっては、浄化槽の設置位置(保守点検や清掃に支障がないなど)、放流先等現場の状況を十分に把握し、適切な施工に努めたか。		
掘削状況	深さや地層、地下水、周辺工作物の状況などに配慮し、必要に応じて水替え工事、土留め工事を行うなど、適正な掘削工事を行ったか。		
割栗地業等	掘削した底面をつき固めた後に、割栗(碎石)を敷き詰め、地盤の状況に応じて基礎の沈下または変形が生じないように適正な地業を行ったか。 (割栗(碎石)地業の仕上がり厚みは100mm以上)		地業の厚み mm
捨てコンクリート	栗石地業を行った後、捨てコンクリートを所定の厚さ(50mm以上)で水平に打設し、所定の強度になるまで適切に養生したか。 プレキャストコンクリート底板使用の場合は、製品種別ごとの設計計算書等に基づき適正な設置工事を行ったか。(捨てコンクリートを打設した場合は、備考欄へ工事内容を記載)		捨てコンクリート厚み mm
基礎底盤コンクリート(現場打ちの場合)	型枠工事を行い、鉄筋を組み立て、スペーサー等により完成した配筋を適正な高さに、水平に設置したか。		配筋 D -@ mm
	コンクリートの打ち込みは打ち上がりが均質になるように行い、所定の強度になるまで適切に養生したか。また、基礎底盤コンクリートの厚さ、広さは適正であるか。		基礎コンクリート厚み mm
プレキャストコンクリート底板(PC板使用の場合)	既成底板コンクリート(プレキャストコンクリート底板)使用の場合は、製品種別ごとの設計計算書等に基づき適正な設置工事を行ったか。		PC板の厚み mm
本体据付	浄化槽本体を据付けた後、水張りを行い、水平を保ちつつ水じめ及び突き固めを行ったか。		
嵩上げの状況	嵩上げの高さは、300mm以内におさまっているか。		嵩上げの高さ mm
浄化槽本体の上部及びその周辺の状況	保守点検及び浄化槽清掃の支障となるものが周辺に置かれていないか。		
	型枠工事を行い、鉄筋を組み立て、スペーサー等により完成した配筋を適正な高さに、水平に設置したか。 コンクリートの打ち込みは打ち上がりが均質になるように行い、所定の強度になるまで適切に養生したか。また、上部コンクリートスラブの厚さ、広さは適正であるか。		
漏水の有無	浄化槽内各室とも、漏水が生じていないか。		
接触材等の変形、破損及び固定の状況	嫌気ろ床のろ材及びばっ気槽の接触材に、変形や破損がないか。また、しっかり固定されているか。		
消毒設備の変形、破損及び固定の状況	消毒装置に、変形や破損がないか。また、しっかり固定され、薬剤筒は傾いていないか。		
ばっ気装置、逆洗装置及び汚泥移送装置の変形、破損、固定の状況	各装置に、変形や破損はないか。また、しっかり固定され、空気の出方や水流に片寄りはないか。		
流入管渠及び放流管渠の勾配	汚物や汚水の停滞がないか。		
放流先の状況	放流口と放流水路の水位差が適切に保たれ、逆流の恐れはないか。		
誤接合等の有無	生活排水が全て接合されているか。		
	雨水や工業排水等が流入していないか。		
桁の位置及び種類	起点、屈曲点、合流点及び一定間隔ごとに適切な桁が設置されているか。		
流入管渠、放流管渠、及び空気配管の変形、破損の恐れ	管の露出等により変形、破損の恐れはないか。		
ブロワの設置及び稼働状況	防振対策がとられ、固定が十分に行われているか。また、漏電の恐れはないか。		
ポンプ施設(流入ポンプ及び放流ポンプ)の設置及び稼働の状況	ポンプ桁に変形や破損、漏水の恐れはないか。		
	設計どおりの能力のポンプが、必要台数(2台以上)設置され、固定が十分に行われているか。また、ポンプの取り外しが可能であるか。 ポンプの位置や配管がレベルスイッチの稼働を妨げる恐れはないか。		

上記のとおり確認したことを証します。

年 月 日

この浄化槽設置工事を監督した浄化槽設備士氏名

(浄化槽設備士免状の交付番号

)

電 話 番 号

合併処理浄化槽設置工事施工会社

所 在 地

会 社 名

代 表 者

電 話 番 号